

品目	2022年度 (実績)		2023年度 (見込み)				2024年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%			
			伸び率%	伸び率%	伸び率%						
<b>総額</b>	121,260	+32.6%	52,957	▲12.7%	54,235	▲10.5%	107,192	▲11.6%	↓ 105,389	▲1.7%	2年ぶりに減少。円安や物価高による価格押し下げ効果があるものの、鉱物性燃料が数量・価格の両面で減少し、全体を押し下げる。
<b>IM 01 食料品</b>	9,644	+23.5%	4,784	▲3.1%	4,512	▲4.1%	9,296	▲3.6%	↓ 8,675	▲6.7%	物価高に伴う消費者の低価格志向(①より安価な品目・部位への需要シフト、②割高な輸入品から国産品への需要シフト)がみられるなど、国内消費の動きが鈍く、国内在庫が高水準であることから、22年度から減少する見込み。
魚介類	1,982	+24.3%	900	▲8.1%	987	▲1.6%	1,887	▲4.8%	↓ 1,844	▲2.3%	海外景気の減速により現地相場が下落。数量は、上半期は在庫が高水準かつ物価高を背景に消費の動きも鈍かったことから減少したものの、下半期は相場の下落を背景に増加に転じる見込み。
肉類	1,921	+17.5%	968	▲6.9%	928	+5.2%	1,896	▲1.3%	↓ 1,870	▲1.4%	飼育頭数の減少に伴う供給減や円安などで価格は高止まり。物価高に伴う低価格志向(高単価な牛肉からより安価な豚肉や鶏肉への需要シフトなど)がみられる中で、金額はやや減少する見込み。
<b>IM 02 原料品</b>	8,075	+9.3%	3,768	▲10.4%	3,554	▲8.2%	7,322	▲9.3%	↑ 7,502	+2.4%	数量では、自動車生産の持ち直しなどから鉄鉱石が増加し、定期修理の影響から銅鉱が大幅に減少する一方で、価格では、鉄鋼石は上昇し、銅鉱は横ばい圏と、品目によって数量・価格の方向が異なる。金額は、非鉄金属鉱の影響から22年度を下回る見込み。
鉄鉱石	1,691	▲19.4%	825	▲8.9%	905	+15.3%	1,731	+2.4%	↓ 1,429	▲17.4%	自動車や半導体の生産の持ち直しなどもあり、国内の粗鋼生産量が上半期並みに計画されているため、原材料の鉄鉱石の数量も横ばいで推移する。一方で、中国の粗鋼生産の堅調さなどを背景に、鉄鉱石価格は上半期から上昇しており、金額は上半期から増加し、年度でも22年度を上回る見込み。
非鉄金属鉱	2,549	+20.1%	1,353	+6.7%	1,061	▲17.2%	2,414	▲5.3%	↑ 2,817	+16.7%	非鉄金属のうち構成比の大きい銅鉱について、23年度下半期に例年よりも大規模な定期修理が予定されているため、数量は大幅に減少する。一方で、国際市場の需給バランスが大きく崩れないため、価格は上半期から横ばい圏を推移するとみられ、下半期の金額は小幅に減少し、通年では22年度より減少する見込み。
<b>IM 03 鉱物性燃料</b>	35,320	+77.6%	12,059	▲32.4%	13,900	▲20.5%	25,959	▲26.5%	↓ 23,860	▲8.1%	23年年初の暖冬の影響で電力向けLNG・一般炭や家庭向けガスの在庫が予想外に積み上がったため、23年度上半期に入ると在庫調整の輸入数量減が発生した。LNGについては原発再稼働や再エネの発電容量拡大に伴う減少も見られる。価格は原油・ガス・石炭共に22年度比で大幅下落、金額ベースで大きく減少する見込み。
原油及び粗油	13,819	+72.3%	5,157	▲29.3%	6,599	+1.2%	11,756	▲14.9%	↓ 11,340	▲3.5%	数量に関しては、5〜6月に国内製油所トラブル等で稼働率が22年度比で落ちていることが上半期の直接的な減少要因。旅行需要の持ち直しによりガソリン・航空機燃料の需要は堅調であるが、輸送及び産業向けの需要が伸び悩み味である。構造的なガソリンや灯油需要の減少は継続しており、23年度一時的に減少する見込み。
石油製品	2,918	+25.9%	1,212	▲17.9%	1,227	▲14.9%	2,439	▲16.4%	→ 2,432	▲0.3%	22年度はロシア・ウクライナ戦争に端を発したロシア品の供給不安から海外市況、特に中間留分の市況が高騰した。各商社は中間留分の輸入を控え、輸入量は大幅に減少した。23年度は一部ロシア品が中国やインドに流れるフローが構築され、22年度比で海外市況と国内市況の価格差が縮み、輸入量は増加傾向にある。一方、為替が円安に進んでいる点は輸入採算の悪化につながっている。
LNG	8,890	+77.6%	2,667	▲37.9%	3,326	▲27.6%	5,993	▲32.6%	↓ 5,652	▲5.7%	23年度の数量は、昨年の暖冬の影響を受けた年度前半の需要低迷(異常な在庫高)、産業部門等からの需要減退と総電力需要が低調に推移する中、原発の一部再稼働、再エネ容量増等を背景に、22年度より減少すると見込む。LNGの価格は、長期契約の比率が高くスポット市況の影響を受け難いものの、上半期の低油価を受け、22年度比で下落する見込み。
LPG	1,033	+24.7%	363	▲30.3%	622	+21.4%	985	▲4.7%	↓ 962	▲2.4%	上半期は温暖化に伴う家庭業務用の需要減や、ウクライナ情勢を背景とした22年度の都市ガス増熱用の需要増の反動で減少傾向が見られたが、下半期は冬場の需要期を迎えると共に堅調な経済状況に伴う工業用需要の増加が見込まれる。冬場の需要期を迎えることによるマーケットタイト化に加え、米国からの堅調な輸出による米国・樺東間の長距離航海の増加によってフレート相場が下支えされ、価格は上半期比上昇する見込み。
石炭	8,586	+139.6%	2,635	▲37.3%	2,099	▲52.1%	4,734	▲44.9%	↓ 3,429	▲27.6%	ロシアのウクライナ侵攻後、発電用の一般炭を中心に増加した一方、昨年の暖冬で国内消費量が想定以下にとどまったことで在庫が高止まりしたため、数量は22年度下半期に比べて減少する。価格は供給不安が後退したことで緩やかに低下するため、金額は大幅に減少する見込み。
<b>IM 04 化学製品</b>	13,147	+21.6%	5,667	▲14.2%	5,446	▲16.7%	11,113	▲15.5%	↑ 11,225	+1.0%	医薬品はワクチンの減少に加えてその他も薬価引き下げの影響等のため減少する見込み。有機化合物、プラスチック、無機化合物は国内需要の低迷が響くが下半期には下げ止まると見込む。
<b>IM 05 原料別製品</b>	10,138	+13.5%	4,534	▲14.1%	4,554	▲6.3%	9,088	▲10.4%	↑ 9,341	+2.8%	原料別製品の主要な品目である鉄鋼、非鉄金属、繊維用糸・織物製品はいずれも22年度から減少するものの、新型コロナ感染拡大前の19年度に比べて高水準を維持する見込み。
鉄鋼	1,474	+22.6%	653	▲15.5%	641	▲8.6%	1,294	▲12.2%	↑ 1,379	+6.5%	数量は、下半期にかけて国内需要の弱さが残るものの、韓国からの輸入が底堅く継続していることもあって22年度比で増加する一方で、価格の低下が下半期にかけて継続するため、金額は減少する見込み。
非鉄金属	3,125	▲0.2%	1,235	▲27.6%	1,233	▲13.2%	2,468	▲21.0%	↑ 2,529	+2.5%	数量では、下半期にかけて在庫調整が重石となるアルミは減少、自動車生産の回復を背景に白金族は持ち直しに向かう。価格では、アルミは海外需要の軟弱さから横ばい圏を推移し、白金族は海外需要の回復によって緩やかに上昇する。下半期の非鉄金属の金額は上半期並みとなり、23年度通年では22年度を大幅に下回る見込み。
繊維用糸・織物製品	1,276	+23.2%	578	▲10.8%	653	+4.0%	1,231	▲3.5%	→ 1,224	▲0.6%	輸入金額は減少。円安の影響で価格は上昇する一方で、価格上昇に伴う需要減で数量は減少し、全体を押し下げる見込み。
<b>IM 06 一般機械</b>	9,543	+21.2%	4,715	▲0.0%	5,000	+3.6%	9,715	+1.8%	↓ 9,300	▲4.3%	事務用機器の国内販売量は落ち込むが、円安効果により金額ベースでは増加となる見込み。半導体製造装置はロジックやメモリー半導体の不調により、数量は減少し価格も下落する見込み。原動機は電力事業の新エネルギー対応等で下半期も継続して増加を見込んでいる。
電算機類(含周辺機器)	2,705	+12.7%	1,194	▲10.3%	1,238	▲9.8%	2,432	▲10.1%	↑ 2,550	+4.9%	大幅な減少に転じる見込み。数量はコロナ禍の需要急増の反動減が続き、価格は円安により下支えされるものの、年度を通じでは在庫増を背景に下落する見込み。
<b>IM 07 電気機器</b>	17,735	+24.2%	8,394	▲2.7%	8,000	▲12.1%	16,394	▲7.6%	↑ 16,600	+1.3%	アフターコロナにおける外出制限の緩和により果ごもり需要が一巡した。テレビ、AV機器等は減少傾向にあり、23年度月次実績を見ても月を経るごとに減少傾向にある。家電の減少幅を参考に年次で見ると22年度比マイナスを見込む。
半導体等電子部品	5,026	+36.8%	2,291	▲9.8%	2,037	▲18.1%	4,328	▲13.9%	↑ 4,637	+7.1%	上半期は、民生向けを中心とする半導体需要の軟化及び価格下落に伴い、金額は減少に転じた。下半期も内外経済の景気減速が見込まれ、最終製品の需要増が見込みにくい状況下で、上半期に引き続き前年比マイナス圏で推移する見込み。
通信機	3,849	+13.8%	1,623	▲9.4%	1,728	▲16.0%	3,351	▲12.9%	↓ 3,270	▲2.4%	国内需要を輸入に大きく依存するスマートフォンは、インフレ進行や部材費高騰により価格が上昇した。また、為替が円安傾向であることにより価格高騰に拍車をかけている。ただ、総需要は縮小傾向であり買い替えサイクルも長期化の傾向にある。また、携帯基地局(無線)、伝送装置(有線)などのNW関連機器も22年度のネットワーク設備増強の反動から設備投資は動意に乏しい。通信機全体では22年度比で大幅減となる見込み。
<b>IM 08 輸送用機器</b>	3,553	+9.5%	2,056	+28.7%	2,165	+10.7%	4,221	+18.8%	↑ 4,560	+8.0%	輸送用機器全体としては、増加基調。自動車は半導体不足の影響が概ね解消し、自動車部品は供給制約が解消。市場も堅調であることから、ともに増加の見込み。航空機類は、防衛部門を中心に航空機関連の装備品調達が進み、大幅に増加する見込み。
自動車	1,601	+20.6%	971	+34.6%	980	+11.4%	1,951	+21.8%	↑ 2,040	+4.5%	上半期は、国内市場が回復基調であることに加え、欧州を中心に半導体不足も概ね解消され、増加傾向。下半期は、円安が下押し要因となるが、富裕層を中心に購買意欲が引き続き堅調であることに加えて、EV補助金の延長も決まったことから、上半期と同水準で推移する見込み。
航空機類	416	▲35.4%	282	+77.5%	364	+41.5%	646	+55.2%	↑ 826	+27.9%	全体としては、欧米や中国の高級車、電動車の新車・限定車を中心に堅調に増加する見込み。民間部門については旅客数の回復が進むものの、機材については更新需要が中心となると予想。防衛部門については、27年度までの防衛力整備計画事業費により、航空機関連の装備品調達が進み、大幅に増加する見込み。
<b>IM 09 その他</b>	14,104	+25.5%	6,980	+1.9%	7,104	▲2.1%	14,084	▲0.1%	↑ 14,327	+1.7%	精密機器類は緩やかに増加を続ける。このうち、医療衛生関連はコロナ禍後の一時的な落ち込みから持ち直すが、時計は数量の低迷から脱せない。また、雑製品のうち、その他品目の数量は、コロナ禍時またはその後一時的な増加の後の伸び悩みから脱せず。円安による価格訴求力の低下も響き、円安の価格押し下げ効果を相殺する見込み。
衣類・同付属品	3,627	+26.4%	1,778	▲1.3%	1,799	▲1.5%	3,577	▲1.4%	↑ 3,673	+2.7%	金額は減少する見込み。円安や海外での人件費上昇に伴い価格は上昇するも、それに伴う需要減で数量が減少し、全体を押し下げる見込み。
<b>製品輸入</b>	68,220	+21.0%	32,345	▲4.0%	32,269	▲6.6%	64,614	▲5.3%	↑ 65,352	+1.1%	製品輸入比率60.3%(22年度比▲0.8ポイント)
		+56.3%		61.1%		59.5%		60.3%		62.0%	

\*2023年度上半期の実績は9桁速報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。

\*魚介類は貿易統計の概況品目「魚介類及び同調製品」、肉類は「肉類及び同調製品」を指す。